

令和元年度

中学校ブロックジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

【小中一貫教育校（施設分離型）】

- | | |
|-------------|----------------------|
| ○宇治中学校ブロック | （菟道小・菟道第二小） |
| ○北宇治中学校ブロック | （小倉小・北小倉小） |
| ○槇島中学校ブロック | （槇島小・北槇島小） |
| ○西小倉中学校ブロック | （西小倉小・南小倉小） |
| ○西宇治中学校ブロック | （神明小・伊勢田小） |
| ○南宇治中学校ブロック | （西大久保小・平盛小） |
| ○広野中学校ブロック | （大久保小・大開小） |
| ○東宇治中学校ブロック | （三室戸小・南部小・岡屋小） |
| ○木幡中学校ブロック | （木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小） |

【小中一貫校（施設一体型）】

- | | |
|------------|-------|
| ○黄檗中学校ブロック | （宇治小） |
|------------|-------|

宇治市教育委員会

目 次

○宇治中学校ブロック（菟道小・菟道第二小）	… 1
○北宇治中学校ブロック（小倉小・北小倉小）	… 4
○槇島中学校ブロック（槇島小・北槇島小）	… 8
○西小倉中学校ブロック（西小倉小・南小倉小）	… 11
○西宇治中学校ブロック（神明小・伊勢田小）	… 14
○南宇治中学校ブロック（西大久保・平盛小）	… 18
○広野中学校ブロック（大久保小・大開小）	… 22
○東宇治中学校ブロック（三室戸小・南部小・岡屋小）	… 26
○木幡中学校ブロック（木幡小・御蔵山小・笠取小・笠取第二小）	… 29
○黄檗中学校ブロック（宇治小）	… 34

令和元年度 宇治中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立宇治中学校 校長 南 享
宇治市立菟道小学校 校長 海老瀬 正純
宇治市立菟道第二小学校 校長 田中 多賀子

小中一貫教育コーディネーター

(宇治) 中学校 教諭 岩井 佳慧
(菟道) 小学校 教諭 塚原 尚子
☆ (菟道第二) 小学校 教諭 山田 健

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

(1) 教育目標

ふるさと宇治を愛し、未来を展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

(2) めざす児童生徒像

ア とともに学び、考える児童生徒 イ たくましく生きる児童生徒 ウ 笑顔を大切にする児童生徒

2 昨年度の成果と課題

- (1) 3つの専門部会(宇治学、授業づくり、人権・道徳)で公開授業が実施でき、事前研究会・事後研究会を実施できた。
- (2) 小学生に対する中学校半日体験を、部活動体験、授業体験、生徒会本部役員からの学校紹介など、さまざまな形で実施できた。
- (3) 中学校入学時の定期テストに対する6年生児童の不安を少しでも軽減するため、宇治中学校教諭より6年生児童に向けてテスト勉強の仕方等の話をする機会を設けることができた。
- (4) 小中一貫夏季研修会では、宇治市教育委員会瀬戸指導主事より「人権教育の推進に向けて～同和問題(部落差別)」について講演していただき、同和問題の歴史や同和教育の成果と手法について学ぶことができた。
- (5) 児童生徒の学力向上に向けて組織の見直しを図り、今までの取組を継続しながら、組織再編をしていく必要がある。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善に取り組み、児童生徒の更なる学力向上に努める。
- (2) 人権教育部において、菟道小学校での人権(同和問題)授業の参観等を通して、教職員の人権意識を高めることで、児童生徒の人権意識を向上させる。
- (3) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組(ふるさと宇治21におけるクラブフェスティバル)を継続していく。
- (4) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各教科部の取組の進捗状況を共通理解するため、合同研修会終了の度に「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (5) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組について報道連絡をしたりホームページや学校だよりで紹介したりする。
- (6) 「中学校入学時の定期テストに対する児童の不安」の軽減に向けた取組を推進する。

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

組織を再編し、授業づくり部（国語・算数等）の9つの教科部会において、やましろ授業スタンダードを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を小・中学校教員が協働して進める。

各校児童生徒の様子との交流については、必要に応じてコーディネーター間で調整し、実施する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

これまで行ってきた交流活動（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査しながら、各校コーディネーター間で調整し、実施していく。

(3) 家庭や地域との連携

小中一貫 教育校だより（FUTT）や学校だより、ホームページ等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介する。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対してどのように学習すればよいかを話をする機会を設ける。

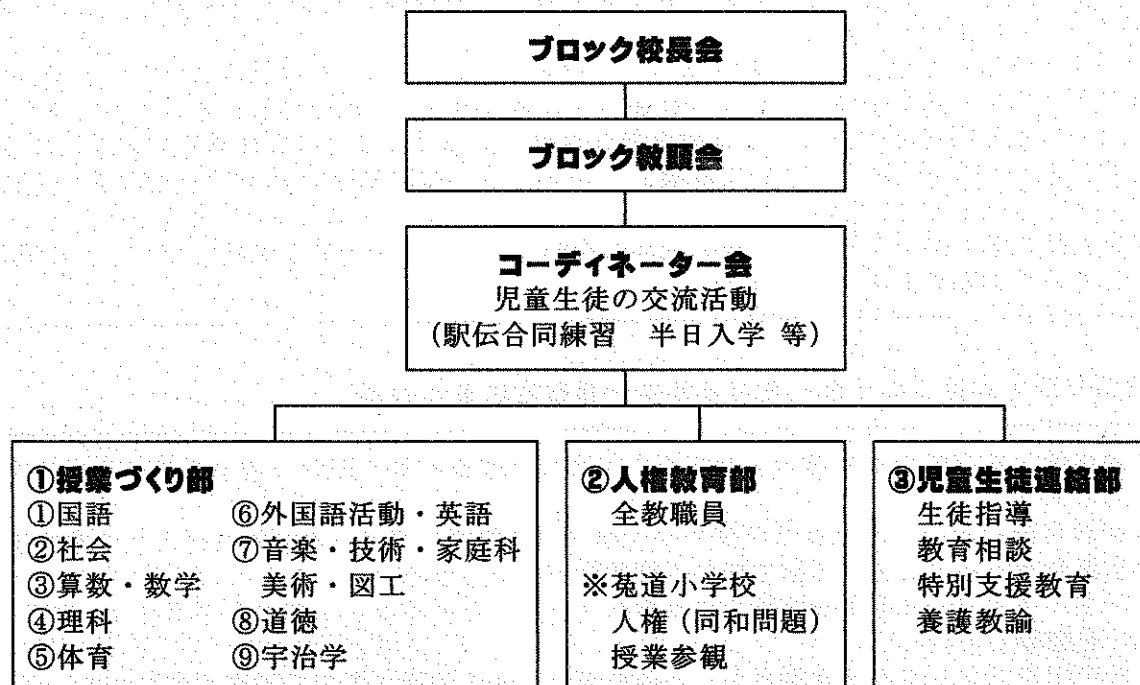
中学校の学校だよりを6年生全員に配布し、中学校の様子をよく知ってもらうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。

各校の校長、教頭、コーディネーターがそれぞれの教科部会に属し、授業改善について助言する等、児童生徒にとってより効果的な授業改善を進めることができるよう進行管理を行う。

※令和元年度小中一貫教育を推進する組織図



ブロック小中一貫教育目標

ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

めざす子ども像

- ア ともに学び、考える児童生徒
- イ たくましく生きる児童生徒
- ウ 笑顔を大切にする児童生徒

昨年度の成果と課題

- (1) 3つの専門部会（宇治学、授業づくり、人権・道徳）で公開授業が実施でき、事前研究会・事後研究会を実施できた。
- (2) 小学生に対する中学校半日体験を、部活動体験、授業体験、生徒会本部役員からの学校紹介など、さまざまな形で実施できた。
- (3) 中学校入学時の定期テストに対する6年生児童の不安を少しでも軽減するため、宇治中学校教諭より6年生児童に向けてテスト勉強の仕方等の話をする機会を設けることができた。
- (4) 小中一貫夏季研修会では、宇治市教育委員会瀬戸指導主事より「人権教育の推進に向けて～同和問題（部落差別）」について講演していただき、同和問題の歴史や同和教育の成果と手法について学ぶことができた。
- (5) 児童生徒の学力向上に向けて組織の見直しを図り、今までの取組を継続しながら、組織再編をしていく必要がある。

今年度の重点

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善に取り組み、児童生徒の更なる学力向上に努める。
- (2) 人権教育部において、菟道小学校での人権（同和問題）授業の参観等を通して、教職員の人権意識を高めることで、児童生徒の人権意識を向上させる。
- (3) 小学生が中学校の部活動を体験できる取組（ふるさと宇治21におけるクラブフェスティバル）を継続していく。
- (4) 宇治中学校ブロックの全教職員が、各教科部の取組の進捗状況を共通理解するため、合同研修会終了の度に「合同研修会のまとめ」を発行し、職員会議等で各部からの報告を行う。
- (5) 保護者・地域へのより一層の啓発を図るため、小中一貫教育の取組について報道連絡をしたりホームページや学校だよりで紹介したりする。
- (6) 「中学校入学時の定期テストに対する児童の不安」の軽減に向けた取組を推進する。

今年度の取組

- (1) **系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実**
組織を再編し、授業づくり部（国語・算数等）の9つの教科部会において、やましろ授業スタンダードを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を小・中学校教員が協働して進める。
各校児童生徒の様子の交流については、必要に応じてコーディネーター間で調整し、実施する。
- (2) **中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開**
これまで行ってきた交流活動（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査しながら、各校コーディネーター間で調整し、実施していく。
- (3) **家庭や地域との連携**
小中一貫 教育校だより（F U T T）や学校だより、ホームページ等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介する。
中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対してどのように学習すればよいかを話をする機会を設ける。
中学校の学校だよりを6年生全員に配付し、中学校の様子をよく知ってもらうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示する。
- (4) **中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善**
ブロック校長会の指導のもと、教頭とコーディネーターを要とした推進体制の充実を図る。
各校の校長、教頭、コーディネーターがそれぞれの教科部会に属し、授業改善について助言する等、児童生徒にとってより効果的な授業改善を進めることができるよう進行管理を行う。

令和元年度北宇治中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立北宇治中学校 校長 松元 伸祥
宇治市立北小倉小学校 校長 藤井 宣夫
宇治市立小倉小学校 校長 安田 善一

小中一貫教育コーディネーター

☆(北 宇 治)中学校 教諭 有山 明利
(北 小 倉)小学校 教諭 佐竹 正孝
(小 倉)小学校 教諭 坂 一真

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標 「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

(めざす子ども像)

- ・ 自ら考え、自発的に表現できる子 (知)
- ・ 人と地域とのつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子 (徳)
- ・ 運動に親しむことにより、楽しく生活できる子 (体)

2 昨年度の成果と課題

(成果)

- ・新たに「道徳係会」「外国語(英語)教育推進係会」を加え、学力を中心とした組織体制のもと、小中一貫教育の推進が図れた。

(課題)

- ・「道徳」「外国語(英語)教育」の円滑な実施に向け研究を進めるとともに、小中の連携を一層深め、学力を中心とした取組をさらに補充・深化する必要がある。

3 令和元年度中学校ブロック小中一貫教育の重点取組

(1) 小中学校の教員が連携して学力の向上を図る。

学力向上のための方策を研究する

(小中一貫の視点から、日々の授業技術の向上や学力定着のための具体的方策を探り実践していく)

☆小中9年間を見通した学びを意識し、小中合同で組織化して取り組む

①学力部(日常的活動)…全員が所属

【学力分析係】

- ・的確な学力分析により児童、生徒の実態を明らかにし、具体的な取組の手立てを提案する。

【授業改善係】

- ・学力向上のための具体的な授業改善策の提案を行う。

【道徳係】

- ・評価のあり方を含め、道徳科の円滑な推進をはかる。

【外国語教育推進係】

- ・小中連携の元、外国語(英語)教育の円滑な連携や推進をはかる。

【家庭学習係】

- ・家庭学習の確実な定着における方策を練り実施する。「家庭学習の手引き」の有効活用を図る。

【特支・教相係】

- ・対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ法を模索するとともに、児童、生徒の実態交流をより細かく行っていく。

②授業部(シーズンの活動)…全員が所属し全教科で授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作成する。

(2) 各係会を中心に、小中一貫教育を推進する組織力を向上させる。

(3) 保護者や地域住民などに、積極的に小中一貫教育の取組や成果等を発信していく。

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

9年間を見通した学習指導のあり方を研究する。

① 学力部係会（日常的活動）…全員が所属

【学力分析係】

- ・ 個人や学力層の経年変化にも踏み込み、学力実態における課題等を明らかにする。
- ・ 各校の研究推進部や他の係会との連携や指示をしながら、学力充実の具体的な取組を提案する。

【授業改善係】

- ・ 各校の研究推進部や学力分析係と連携して学力向上のための具体的な授業改善策や、児童・生徒の効果的な学習方法を提案する。
- ・ 合同研究授業は原則、全教科で行う。
- ・ 合同授業研における3校共通の研究テーマを検討・提案する。

【道徳係】

- ・ 道徳の教科化にともない、円滑な推進や評価のあり方などで連携を図る。

【外国語（英語）教育推進係】

- ・ 小学校における外国語（英語）教育の設置に伴い、有効な学習方法等を提案する。
- ・ 小中における外国語（英語）教育の円滑な連携を図る。

【家庭学習係】

- ・ 昨年度完成させた「家庭学習の手引き」の有効利用を図る。
- ・ 小中それぞれに家庭学習の確実な定着のための方策を練り、実施する。

【特支・教相係】

- ・ 対象児童、生徒に対する有効な方策やアプローチ方法を示していく。
- ・ 小中それぞれの児童、生徒の実態交流をより細かく行い、連携を図っていく。

② 授業部（シーズンの活動）…全員が所属し原則全教科で研究授業を実施するとともに、9年間の指導を見通し小中合同で指導案を作製する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

小中合同授業研究

- ・ 合同授業研究に向け小・中学校教員が協働し、指導案を作成する。
小中一貫教育の視点を持って指導方法や教材研究等の交流を行う。（合同授業研究会は北宇治中学校で実施）

学力の実態把握と分析

- ・ 京都府学力診断テスト、全国学力・学習状況調査等の結果を活用し、学力実態の分析を学力向上に生かす。
- ・ 各校の「いしずえ学習」の取組を交流し児童生徒の基礎基本の確実な習得・定着を図る。

カリキュラム作成における連携

- ・ 9年間を見通した年間指導計画を活用し、系統的継続的な学習指導の充実を図る。
（カリキュラムの交流及び検討）

児童・生徒の交流

- ・ 学校行事や対外行事、地域ボランティア活動、児童会・生徒会活動や交流を通して、小小連携、小中連携をすすめる。
- ・ 小学6年生を対象にした半日入学の取組を実施する。

(3) 家庭・地域社会との連携

小中一貫教育ニュースの発行

- ・保護者向け小中一貫教育ニュースを学期に1回程度発行し、活動内容を保護者・地域に紹介していく。
- ・他の広報紙発行等を行い、ブロック内の小中一貫教育の取組の情報発信を適切に行う。

家庭学習の取組

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、保護者の協力を得つつ、家庭学習の時間を定着させることで学力の向上を図る。

(4) 中学校ブロック推進体制と取組の充実・改善

機能的な組織運営

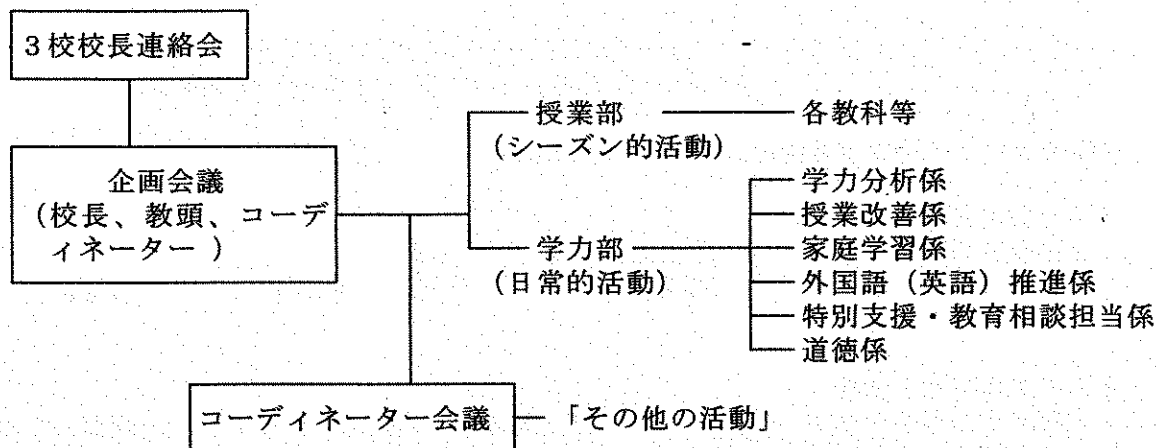
- ・コーディネーター会議を必要に応じて開き、調整する。
- ・企画会議を中心に原案を練り、それに基づいて各係が教職員の具体的な動きをつくり、小中一貫教育を推進する。
- ・各係会における「顧問」の設置（各小中学校校長・教頭が担当）

☆学力分析係…安田校長（小倉小） ☆授業改善係…堀井教頭（北宇治中）
 ☆家庭学習係…姫野教頭（北小倉小） ☆外国語（英語）係…大川教頭（小倉小）
 ☆特支教相係…藤井校長（北小倉小） ☆道徳係…松元校長（北宇治中）

- ・各係会は各自がいずれかの係会に所属する。（各校の管理職が顧問として各係会に所属）
- ・授業部会は各自がいずれかの教科に所属する。研究授業は原則全教科で実施する。
- ・各部、係会で各校1名の代表者を決め、代表者が各顧問の助言を受けながら中心となって部会運営を行う。

※ 令和元年度小中一貫教育を推進する組織図

令和元年度組織体制…組織図、構成



学力部 全員所属、学力の向上を目指すために各係で各学校代表者を置く。
 児童・生徒会等の取組は、「その他の活動」の中で継続する。
 ラーニングコーディネーターは、部内等の活動がスムーズに行われているかチェックし、サポートする。

授業部 全員所属、授業実施にあわせて全教科で授業することを基盤とする組織で、小中合同で指導案づくりを行う。研究授業は原則、全教科で行う。

ブロック小中一貫教育目標

「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

めざす子ども像

・自ら考え、自発的に表現できる子(知) ・人と地域のつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子(徳) ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子(体)

昨年度の成果と課題

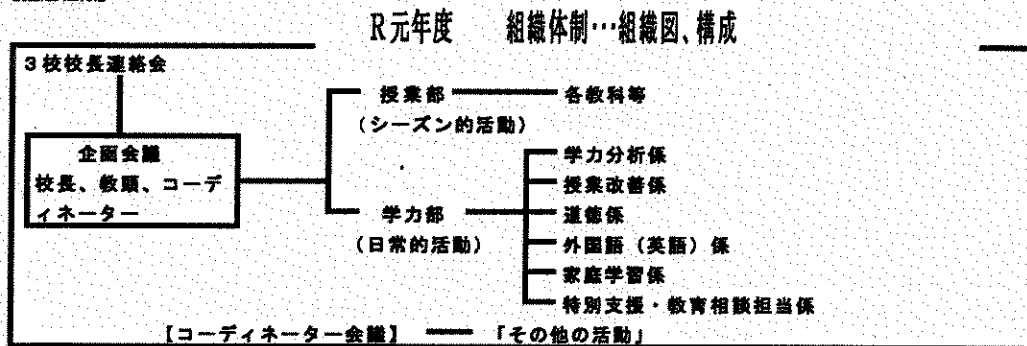
- ・ 合同授業研実施により効果的・効果的指導法の交流の達成
- ・ 「道徳」「外国語(英語)教育推進」係会追加により学力面中心の小中一貫教育の推進達成
- ・ 具体的な学力向上の成果達成の必要
- ・ 保護者・地域への周知・理解の徹底化

今年度の重点

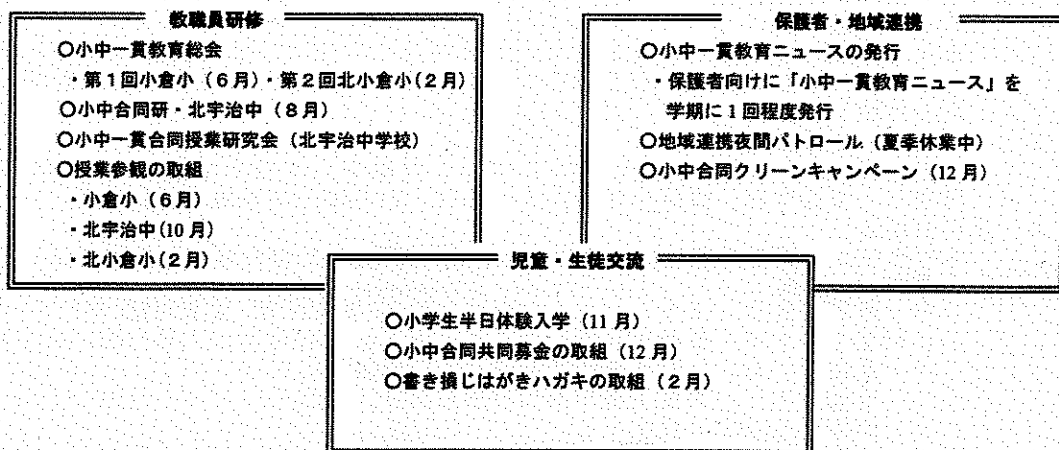
- ・ 学力面中心の小中一貫教育のさらなる推進
- ・ 学力伸長の数値化による顕在化の推進
- ・ 中一ギャップ解消の取組のさらなる推進
- ・ ブロック内連携深化による、「道徳」「外国語(英語)」の円滑実施に向けた研究の推進

今年度の取組

【推進組織】



【取組の概要】



令和元年度 横島中学校ブロック ジョイントプラン

一 小中一貫教育推進計画 一

宇治市立横島中学校 校長 瀬野 克幸
宇治市立横島小学校 校長 田中 弘一
宇治市立北横島小学校 校長 辻 弘一

小中一貫教育コーディネーター

☆(横島)中学校 教諭 手嶋 晃一
(横島)小学校 教諭 飯田 晴平
(北横島)小学校 教諭 青野 裕平

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中一貫教育目標
めざす子ども像

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

心身共に健康で、明るく活動する子
意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

2 昨年度の成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。また、ブロック校長会、ブロック教頭会の推進を図ることができた。
- ◇教職員研修では、中学校ブロックの学力分析を行い、基礎学力のさらなる定着のための取組、家庭学習の推進など、学力充実に向けた児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。
- ◇横島小学校の家庭科研究について紹介し、家庭科部会を中心として具体的な実践交流を図り、研究成果に基づいた小中連携・小中連携を推進することができた。
- ◆家庭学習のあり方を再検討し、実態に合わせながら学力充実のため改善していく必要がある。
- ◆授業改善の視点を整理し、日々の実践につながるよう、連携をさらに深めていく必要がある。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

☆横島中学校ブロック研究テーマ

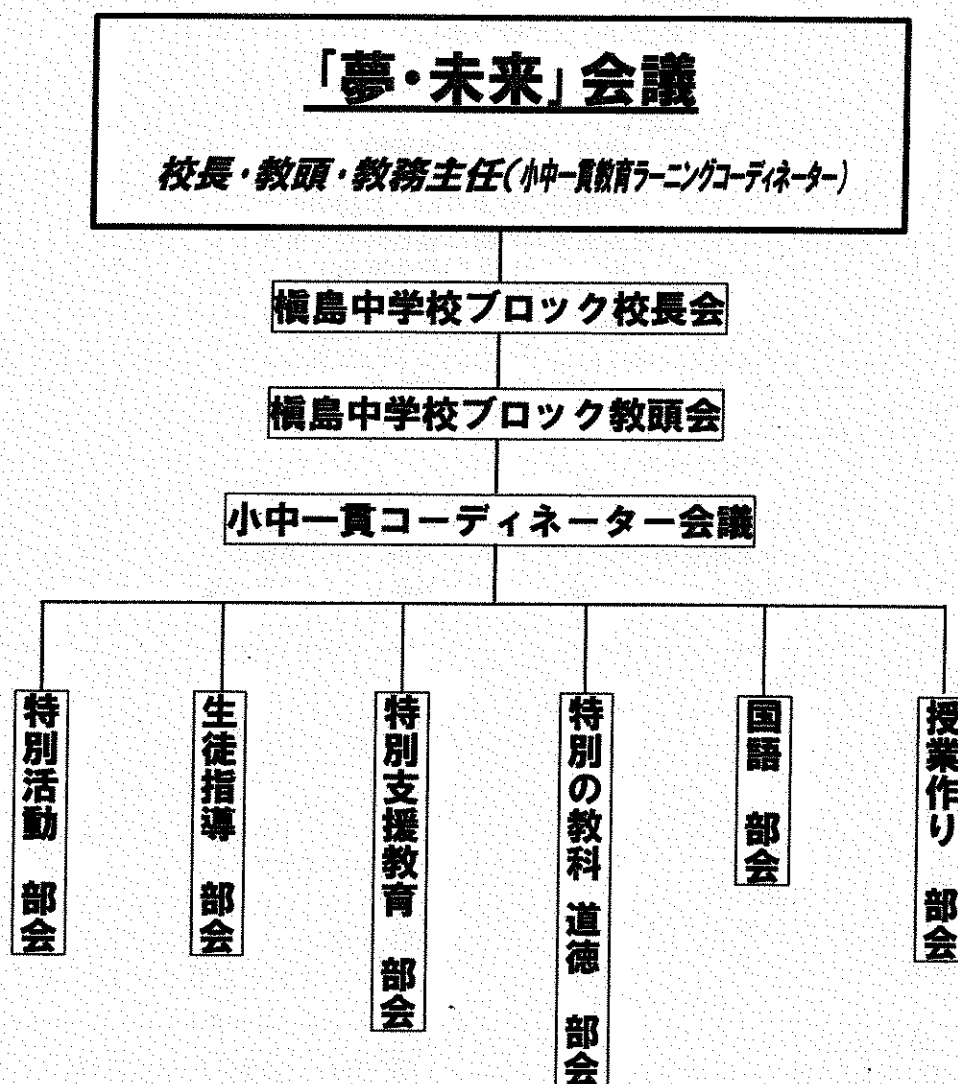
「主体的・対話的で深い学びの充実」をテーマとした授業作り

中学校ブロックの授業作りのテーマを「主体的・対話的で深い学びの充実」と設定し、北横島小学校が取り組んでいる特別の教科道徳の研究について小中連携・小中連携を深め研究成果を広げ実践に生かしながら、児童生徒の授業意欲を向上させるための授業改善および家庭学習の充実に向けた研究を進めていく。

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・授業作り部会を中心に山城授業スタンダードを基本としながら、ブロックで共通して取り組むことができる授業スタイルを作成し、実践する。
 - ・国語部会を中心に、「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」を推進していく。
 - ・小中の接続をスムーズに行えるよう、教科連携教員（外国語）をキーパーソンとした連携や、教科・領域部会を中心とした綿密な連携や研究・研修を推進する。
 - ・北横島小学校の「特別の教科 道徳」の研究について教科領域部会を通じて研究成果を広め、小中連携・小中連携を深める。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ア 小学生の中学校体験入学
中学進学への不安を解消し、中学校生活への見通しを持つために、中学校での授業体験と部活動体験を行う。
 - イ 中学生の職場体験
横島中学校の2年生が、横島小学校と北横島小学校で、朝の児童の登校を迎えるあいさつや、学級での授業支援、休み時間や給食時間での児童との交流、環境整備など、様々な活動を体験する。
 - ウ 小・中学生の主張交流会
横島中学校の「中学生の主張」学年代表と、北横島小学校6年生の「将来の夢」学級代表が発表し、交流する。横島小学校の6年生は、その様子を映像で鑑賞する。
 - エ 絵画巡回展
中学校ブロックの児童生徒の代表絵画作品を3校および地域にも巡回展示する。
- (3) 家庭や地域との連携
 - ・小中一貫教育便り「マキシマム」の継続発行（保護者配布・地域回覧）やHPへの掲載、各校の広報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。
 - ・学校・地域行事で、児童生徒が共に活動したり、交流したりする場面や小中一貫教育の成果を発揮する場面を設定する。
 - ・昨年度に引き続き、横島中学校ブロックPTA・育友会役員合同研修会を実施し、地域や保護者との連携の意識を高めていく。
- (4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善
 - ・「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、小中一貫教育の取組や各部の研究実践を推進する。そのため、横島中学校ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議を定期的に行い、連携をより強化する。
 - ・教職員広報を発行し、小中一貫教育推進に関わる情報を発信し、小中学校の教職員の共通理解を図りながら、取組を推進する。

令和元年度 横島中学校ブロック小中合同研・組織



ブロック小中一貫教育目標

「豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成」

めざす子ども像

- 心身共に健康で、明るく活動する子
- 意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
- 地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

昨年度の成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。
また、ブロック校長会、ブロック教頭会の推進を図ることができた。
- ◇教職員研修では、中学校ブロックの学力分析を行い、基礎学力のさらなる定着のための取組、家庭学習の推進など、学力充実に向けた児童生徒の課題に迫る研究を推進することができた。
- ◇榎島小学校の家庭科研究について紹介し、家庭科部会を中心として具体的な実践交流を図り、研究成果に基づいた小小連携・小中連携を推進することができた。
- ◆授業改善の視点を整理し、日々の実践につながるよう、連携をさらに深めていく必要がある。
- ◆家庭学習のあり方を再検討し、実態に合わせながら学力充実のため改善していく必要がある。

今年度の重点

☆榎島中学校ブロック研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びの充実」をテーマとした授業作り

中学校ブロックの授業作りのテーマを「主体的・対話的で深い学びの充実」と設定し、北榎島小学校が取り組んでいる特別の教科道徳の研究について小小連携・小中連携を深め研究成果を広げ実践に生かしながら、児童生徒の授業意欲を向上させるための授業改善および家庭学習の充実に向けた研究を進めていく。

今年度の取組

教職員研修

- 合同研修会
 - ・中学校授業参観と全体会、
教科・領域部会（6／10）
 - ・学力実態・分析交流、講演会、
教科・領域部会、学年会（8／20）
 - ・府小研道徳科研究大会（北榎島小）へ参加
（11／12）
 - ・教科・領域部会（11／25）
- 榎島小学校授業参観（5／20）
- 北榎島小学校授業参観（6／20）
- 教職員広報誌の発行

学力充実を目指して

- 学力実態・分析の実施と交流
- 分析に基づく授業改善にむけた検討
- 中学1年ふりスタへの小学校教員による支援
- 「家庭学習ナビゲーション」の配付と改善

児童・生徒交流

- 陸上運動交歓記録会（10／4）
- 中学生の職場体験（10／23～25）
- 絵画巡回展（11月頃）
- 小学生の中学校体験入学（11／6）
- 児童会・生徒会挨拶運動（12／10～11）
- 小・中学生主張交流会（2／28）

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便り「マキシマム」の発行・HPへの掲載
- 榎島中学校ブロック PTA・育友会役員合同研修会（10月下旬）
- 北榎島小学校区青少年健全育成協議会「夏祭り」（8／3）
- 榎島小学校区左義長（1／11）
- 北榎島小学校区餅つき&クリーン運動（1／18）

小中一貫教育推進に関わって

- 「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、小中一貫教育の取組や各部の研究実践を推進する。
- 榎島中学校ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議を定期的実施する。
- 授業作り部会で授業スタイルを構築し、国語部会で宇治市アクションプランの具体的取組の交流・推進し、その他の部会で学級経営における生徒指導、道徳、特別活動、特別支援のベースを共有する。

令和元年度 西小倉中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立西小倉中学校 校長 久保田正宏
宇治市立西小倉小学校 校長 堀井 眞
宇治市立南小倉小学校 校長 藤田 明男

小中一貫教育コーディネーター
☆西小倉小学校 教諭 奥山 紀子
南小倉小学校 教諭 丸尾 章弘
西小中小学校 教諭 村雲 賢也

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の 豊かな心と 確かな学力を育む

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気をつけ 自らの目標に向かってがんばる子

2 昨年度の成果と課題

【成果】

- ・「やましろ授業スタンダード」をもとに、教科ごとに西小倉小で授業を参観し、事後研を行った。
- ・中学校のテストへの不安軽減を図る取組として、3月に中学校の教務主任が小6児童に向けて話をし、中学校に入学してから勉強がスムーズに始められるきっかけづくりを行った。
- ・研修のテーマを「高校入試と進学先について」とし、小学校教員も進路という義務教育の出口を知ることができた。

【課題】

- ・自主学習の定着に課題が残る。小学校では高学年だけでなく、中学年から段階的に定着させていく取組が必要。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

- ①教員の研究・研修を充実させるための取組
- ②家庭学習充実の取組とその発信
- ③各校の校務分掌を生かした協力体制

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・「やましろ授業スタンダード」の活用。
- ・教科連携加配(体育)による小学校6年生(南小倉小学校は5年も実施)の指導。
- ・小学校高学年における教科担任制授業(音楽)を推進する。
- ・「いしずえ学習」を活用し、基礎基本の徹底や「自主学習」「振り返り学習」を行う。
- ・中学校のテストへの不安軽減を図るため、両小学校6年生が、中学校のテストの形式に合わせたテストを実施する。
- ・国語への意欲向上のために、4月に両小学校6年生に「全国学力調査準備講座」を実施する。
- ・外国語を両小学校で先行実施し、小小や小中の接続を意識した授業を展開する。

ブロック小中一貫教育目標

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の 豊かな心と 確かな学力を育む
めざす子ども像

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気を付け 自らの目標に向かってがんばる子

昨年度の成果と課題

- ・「やましる授業スタンダード」を活用した授業研
- ・中学校テスト準備講座がスムーズに始められる
きっかけづくりを行った。
- ・「高校入試と進学先について」の研修
- ・自主学習の定着に課題

今年度の重点

- ①教員の研究・研修を充実させるための
取組
- ②家庭学習充実の取組とその発信
- ③各校の校務分掌を生かした協力体制

今年度の取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・「やましる授業スタンダード」の活用。
- ・教科連携加配(体育)による小学校6年生(南小倉小学校は5年も実施)の指導。
- ・小学校高学年における教科担任制授業(音楽)を推進する。
- ・「いしずえ学習」を活用し、基礎基本の徹底や「自主学習」「振り返り学習」を行う。
- ・中学校のテストへの不安軽減を図るため、両小学校6年生が、中学校のテストの形式に合わせたテストを実施する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開<学力の充実・向上>

- ・合同授業研究会(1回)、フリー参観(1回)を行う。
- ・小小連携加配による、両小学校での音楽の授業を通して課題を発見し、改善する。
- ・国語への意欲向上のために、4月に両小学校6年生に「全国学力調査準備講座」を実施する。
- ・外国語を両小学校で先行実施し、小小や小中の接続を意識した授業を展開する。
- ・重点目標 「C層D層の児童の学習意欲を高めるために教員の指導力を向上させる。」
に沿って、各校で行う研修にお互いが参加できる体制を作る。
- ・自主学習ができる児童生徒を育てるために、各校の宿題や放課後学習、補習の取組を
コーディネーターが 共有し、各校で改善していく。

(3) 家庭・地域との連携

- ・家庭学習の充実に繋がる意識アンケートを実施する。
- ・様々な取組を「学校だより」、HP等で発信する。
- ・各校の「一貫教育コーナー」(掲示板)を充実させる。

令和元年度 西宇治中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立西宇治中学校 校長 岩崎 正樹
宇治市立伊勢田小学校 校長 岸 久也
宇治市立神明小学校 校長 松本 英明

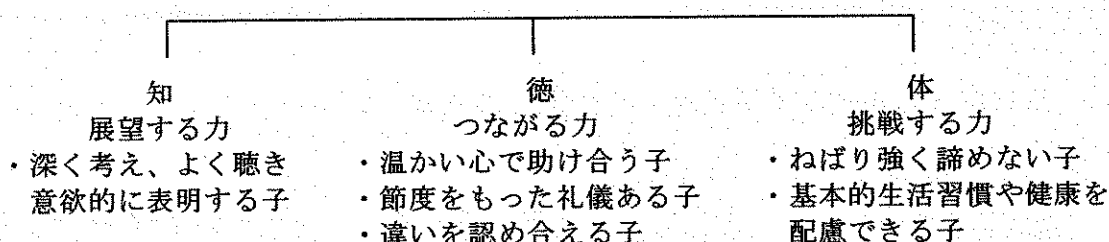
小中一貫教育コーディネーター

(西宇治) 中学校 教諭 大石 充士
☆ (伊勢田) 小学校 教諭 玉井 耕平
(神明) 小学校 教諭 吉村 祥代

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

N・I・S目標 「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

目指す児童・生徒像



2 昨年度の成果と課題

【成果】

- ・3校交流の意義がより浸透し、各部・全体とも年度当初の協働計画を積極的に進めることができた。
- ・行事や取組について、個々の運営体制を見直し実践面の整理を進めることで、持続可能な取組体制を整え、協働への理解を得ることができた。

【課題】

- ・小中の共有や協働が進んだことで、「学力充実」を中心とする「9年間を通して向き合うべき課題」が各部ごとにも見えてきた。対策するためには、見通しを持った綿密な計画が必要であると考えられる。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

主体的・対話的で深い学び、及び進路を見据えた学力向上の取組を基本に置く。

- (1) 「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた合同研修会及び各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善。）
- (4) 相互連携授業の充実

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ① 第3回西宇治中学校ブロック小中一貫教育合同研修会（10月）の公開授業（会場：神明小学校）に向け、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を持ち、各教科の学習指導案作成及び指導方法等について研究や研修を実践する。特に、8月の研修会では、「国語力育成」について講演を聞いたり、各校の学力充実の取組の交流を行ったりする。また、学習指導案作成の際には、「学力充実の視点」の項目を追加し、より学力向上を意識した授業作りを進める。
- ② 小中学校9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修するとともに、その成果を共有し協働に活かすことができるよう、資料・データの整理（＝「見える化」）に努める。
- ③ 「宇治学」に関しては、副読本の活用について十分検討し、持続的・継続的、さらに現実的な計画を立てる。
- ④ 小中学校共、各学年における最初の授業や適切な機会を捉えた「学習の手引き」活用で、「学習の仕方指導」を実施するとともに、学習指導面における小中連携・協働を進める。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ① 中2「職場体験学習」の場を小学校に設定する取組（5月29・30・31日）や、小学校児童への中学生の「部活動を生かした交流」（駅伝合同練習）実施など、相互の理解と交流を深める取組を積極的に実践する。
- ② 小6「中学校体験入学」（11月6日）を実施して、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。
- ③ 毎学期小中学校共同で「朝の挨拶運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。
- ④ 各取組の担当者は、相互に取組の意義や実践に関する詳細について打ち合わせを行うことで取組の形骸化を避け、有効な取組としての維持継続を図る。

(3) 家庭や地域との連携

- ① 広報紙発行（小中学校保護者、及び地域へ配布）の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だより（小5・小6・中1対象分）のブロック内交流、各校HP上の工夫等々、広く地域に発信し理解と支援を求める。
- ② 各地域行事（夏祭りや左義長など）、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

- ① ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。（特に、実務に直結するコーディネーター会議は月例開催を目処とし、全体の調整と活性化にあたる。）
- ② 小中連携の諸行事における準備の手順や役割担当等を明確にし、協働体制を構築する。

令和元年度 小中一貫教育を推進する組織図

西宇治中学校ブロック小中一貫教育推進会議

西宇治中ブロック校長会

ブロック教頭会

神明小
コーディネーター

伊勢田小
ラーニングコーディネーター

西宇治中
コーディネーター

領域 3 部会

学力充実

児童生徒交流

児童生徒理解

国語 社会 算数 理科 音楽 家庭 図工 体育 宇治学 外国語 道徳 特支 養護
数学 技術 美術 英語 栄養

生徒指導
特別支援
教育相談

西宇治中学生徒会
伊勢田小児童会
神明小児童会

西宇治中学校ブロック全教職員

中学校は教科担当を基本に校務分掌を配慮
小学校は校務分掌を配慮しつつ可能な限り均等割

- (1) ブロック校長会とブロック教頭会、コーディネーター会議をもって推進会議を構成する。
- (2) コーディネーターは各校教員を組織し領域3部会を構成する
- (3) 各校教職員は領域3部会に組織される。
- (4) 教科部会は「特別支援」「養護・栄養」を含む13部会で構成する。

ブロック小中一貫教育目標

N · I · S 目標

「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

- 知「展望する力」：・深く考え、よく聴き、意欲的に表明する子
○ 徳「つながる力」：・温かい心で助け合う子 ・節度をもった礼儀ある子
・違いを認め合える子
○ 体「挑戦する力」：・ねばり強く諦めない子 ・基本的生活習慣や健康を配慮できる子

昨年度の成果と課題

【成果】

- 3校交流の意義がより浸透し、各部・全体とも年度当初の協働計画を積極的に進めることができた。
- 行事や取組について、個々の運営体制を見直し実践面の整理を進めることで、持続可能な取組体制を整え、協働への理解を得ることができた。

【課題】

- 小中の共有や協働が進んだことで、「学力充実」を中心とする「9年間を通して向き合うべき課題」が各部ごとにも見えてきた。対策には、見通しを持った綿密な計画が必要であると考えられる。

今年度の重点

主体的・対話的で深い学び、及び進路を見据えた学力向上の取組を基本に置く。

- (1) 「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン」に基づいた合同研修会及び各教科部会の充実と発展、公開授業研究会の実施
- (2) 領域3部会機能の活性化
- (3) 小小連携の充実（中学校進学に向け、共通組織による実態改善。）
- (4) 相互連携授業の充実

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・第3回西宇治中学校ブロック小中一貫教育合同研修会(10月)の公開授業(会場:神明小学校)に向け、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を持ち、各教科の学習指導案作成及び指導方法等について研究や研修を実践する。特に、8月の研修会では、「国語力育成」について講演を聞いたり、各校の学力充実の取組の交流を行ったりする。また、学習指導案作成の際には、「学力充実の視点」の項目を追加し、より学力向上を意識した授業作りを進める。
 - ・小中学校9年間に及び児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修するとともに、その成果を共有し協働に活かすことができるよう、資料・データの整理(=「見える化」)に努める。
 - ・「宇治学」に関しては、副読本の活用について十分検討し、持続的・継続的、さらに現実的な計画を立てる。
 - ・小中学校共、各学年における最初の授業や適切な機会を捉えた「学習の手引き」活用で、「学習の仕方指導」を実施するとともに、学習指導面における小中連携・協働を進める。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・中2「職場体験学習」の場を小学校に設定する取組(5月29・30・31日)や、小学校児童への中学生の「部活動を生かした交流」(駅伝合同練習)実施など、相互の理解と交流を深める取組を積極的に実践する。
 - ・小6「中学校体験入学」(11月6日)を実施して、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援する。
 - ・毎学期小中学校共同で「朝の挨拶運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深める。
 - ・各取組の担当者は、相互に取組の意義や実践に関する詳細について打ち合わせを行うことで取組の形骸化を避け、有効な取組としての維持継続を図る。
- (3) 家庭や地域との連携
 - ・広報紙発行(小中学校保護者、及び地域へ配布)の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だより(小5・小6・中1対象分)のブロック内交流、各校HP上の工夫等々、広く地域に発信し理解と支援を求める。
 - ・各地域行事(夏祭りや左義長など)、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得る。
- (4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善
 - ・ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努める。(特に、実務に直結するコーディネーター会議は月例開催を目処とし、全体の調整と活性化にあたる。)

令和元年度 南宇治中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立南宇治中学校	校長	村上	善輝
宇治市立西大久保小学校	校長	濱田	昌一
宇治市立平盛小学校	校長	浦田	雅彦

小中一貫教育コーディネーター

☆ (南 宇 治) 中学校	教諭	大村	優
(西大久保) 小学校	教諭	瓜生	貴士
(平 盛) 小学校	教諭	吉田	晴美

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」
『夢や希望を持った、未来をたくましく生きぬく子ども』

2 昨年度の成果と課題

- ・ 3校合同研修会や各部会での検討の結果、児童生徒の実態、児童生徒に付けさせたい力、南宇治ブロックの学力向上の取組の方向性について、教職員の共通理解が図れてきている。さらに、授業の手立ての工夫などを共有し、小中の一貫した指導・支援を行い学力向上につなげる。
- ・ 授業・部活動体験や合同の取組を実施する中で、児童から中学校生活への不安が解消したという声を聞いた。さらに取組や交流が主体的で日常的なものになっていく内容を検討していく。
- ・ 児童生徒の健康状況や生活習慣についても交流し課題が共有できたので、『小中合同ほけんだより』を家庭、地域へ発信できた。
- ・ 学力の向上の取組を具体的に進めるため組織を見直した。その中で「家庭学習の手引き」を作成できた。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

- ・ 学力向上に向けた新組織が活動しやすい体制をつくり、授業の手立ての工夫や、家庭学習の取組（「家庭学習の手引き」の見直しなど）、保護者への様々な支援の検討を進め、家庭、地域と協力しながら学力向上を図る。
- ・ 中学校へのスムーズな接続のために、より具体的な小・中学校での取組を考えていく。

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・学力分析の結果から、具体的な改善目標を精選し、設定した目標に向けての取組を検討する。
- ・授業を公開し、事前研・事後研を含む授業研究を行い、小中で取り組める授業改善の方向性を探る。
- ・授業規律の共有と家庭学習の取組（家庭学習の手引きの活用など）を進める。
- ・各校の状況を踏まえ、学校生活のきまりや、よりよい姿を小中で共有する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・両小学校で帰国外国人児童生徒理解学習を実施し、中国武術体験などを通して三校共通のグローバルな感覚を養う。
- ・児童会生徒会合同会議を実施し、小中合同地域清掃ボランティア活動や、児童会生徒会合同あいさつ運動を児童生徒の主體的な取組にする。
- ・小学6年生の授業体験・部活動体験や、中学生による小学生の部活指導支援を通して児童生徒の交流を図る。

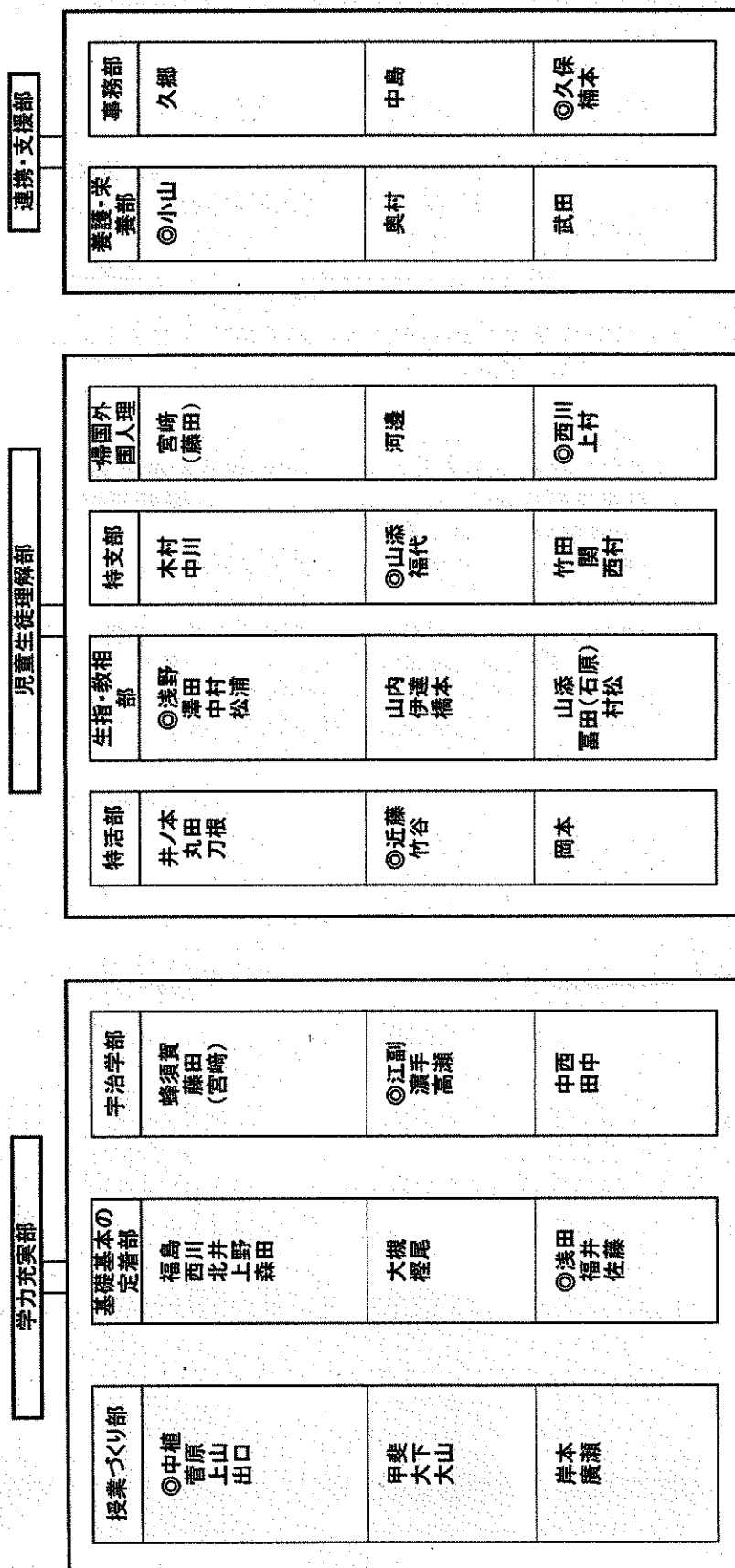
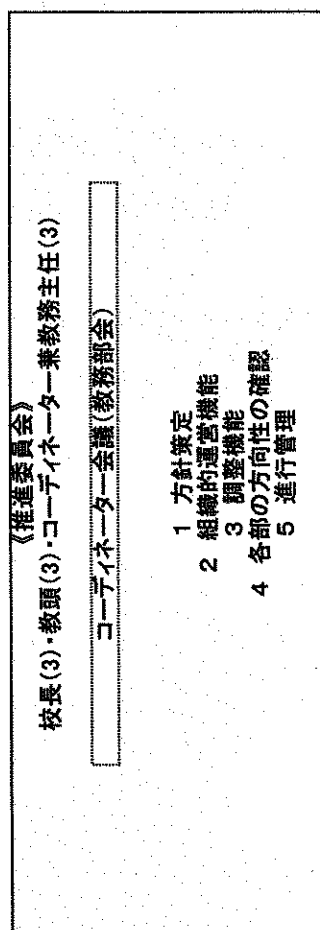
(3) 家庭や地域との連携

- ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に発行する。
- ・「家庭学習の手引き」の配布を通して、家庭学習の大切さを知らせ保護者と一体になって家庭学習推進の取組を進める。
- ・地域に学校だよりを配布し、学校の実践を紹介すると共に、地域の課題を共有する。

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

- ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会を計画的に実施する。
- ・ブロック校長会の指導に基づき推進計画を立案し、改善充実させる。
- ・コーディネーター会議及び推進委員会等において教科連携加配を効果的に活用すよう検討する。
- ・ラーニングコーディネーターが定期的に学校訪問を行う。

令和元年度 南宇治中学校区小中一貫教育推進体制組織図



南宇治中学校

西大久保小学校

平盛小学校

ブロック小中一貫教育目標

「夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成」

めざす子ども像

『夢や希望を持った、未来をたくましく生きぬく子ども』

昨年度の成果と課題

- ・ 3校合同研修会や各部会での検討の結果、児童生徒の実態、児童生徒に付けさせたい力、南宇治ブロックの学力向上の取組の方向性について、教職員の共通理解が図れてきている。さらに、授業の手立ての工夫などを共有し、小中の一貫した指導・支援を行い学力向上につなげる。
- ・ 授業・部活動体験や合同の取組を実施する中で、児童から中学校生活への不安が解消したという声を聞いた。さらに取組や交流が主体的で日常的なものになっていくよう内容を検討していく。
- ・ 児童生徒の健康状況や生活習慣についても交流し課題が共有できたので、『小中合同ほけんだより』を家庭、地域へ発信できた。
- ・ 学力の向上の取組を具体的に進めるため組織を見直した。その中で「家庭学習の手引き」を作成できた。

今年度の重点

- ・ 学力向上に向けた新組織が活動しやすい体制をつくり、授業の手立ての工夫や、家庭学習の取組（「家庭学習の手引き」の見直しなど）、保護者への様々な支援の検討を進め、家庭、地域と協力しながら学力向上を図る。
- ・ 中学校へのスムーズな接続のために、より具体的な小・中学校での取組を考えていく。

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・ 学力分析の結果から、具体的な改善目標を精選し、設定した目標に向けての取組を検討する。
 - ・ 授業を公開し、事前研・事後研を含む授業研究を行い、小中で取り組める授業改善の方向性を探る。
 - ・ 授業規律の共有と家庭学習の取組（家庭学習の手引きの活用など）を進める。
 - ・ 各校の状況を踏まえ、学校生活のきまりや、よりよい姿を小中で共有する。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・ 両小学校で帰国外国人児童生徒理解学習を実施し、中国武術体験などを通して三校共通のグローバルな感覚を養う。
 - ・ 児童会生徒会合同会議を実施し、小中合同地域清掃ボランティア活動や、児童会生徒会合同あいさつ運動を児童生徒の主体的な取組にする。
 - ・ 小学6年生の授業体験・部活動体験や、中学生による小学生の部活指導支援を通して児童生徒の交流を図る。
- (3) 家庭や地域との連携
 - ・ 「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に発行する。
 - ・ 「家庭学習の手引き」の配布を通して、家庭学習の大切さを知らせ保護者と一体になって家庭学習推進の取組を進める。
 - ・ 地域に学校だよりを配布し、学校の実践を紹介すると共に、地域の課題を共有する。
- (4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善
 - ・ ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会を計画的に実施する。
 - ・ ブロック校長会の指導に基づき推進計画を立案し、改善充実させる。
 - ・ コーディネーター会議及び推進委員会等について、教科連携教員を効果的な活用を検討する。
 - ・ ラーニングコーディネーターが定期的に学校訪問を行う。

令和元年度 広野中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立広野中学校 校長 秋元 恒志
宇治市立大久保小学校 校長 荻野 修司
宇治市立大開小学校 校長 永井 久敬

小中一貫教育コーディネーター
広野中学校 教諭 小林 哲也
★大久保小学校 教諭 横江 孝洋
大開小学校 教諭 帆足 慶信

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

＜教育目標＞
夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

＜9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）＞
自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力
健やかな体で粘り強くやり抜く力 自分の生き方を求めていく力

2 昨年度の成果と課題

＜成果＞
・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
・学園の学力課題を焦点化した共通問題を作成し、授業の中で活用することができた。
・広野中学校生徒や教員と小学生が具体的な中学校の生活や学習の仕方について話し、感じたことを小学校生活に生かす活動を通して、中学校に向けての不安を軽減することができた。
・3校合同での地域懇談会や学校評議員会議を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
・3校の行事予定表や HOOP（宇治ひろの学園小中一貫だより）を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。

＜課題＞
・各校の教職員の交流や共同研究を充実させ、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
・学園全体の学力向上を目指し、さらに学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
・家庭、地域に対して「目に見える取組」をさらに展開していく。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

- ◎「学びの意欲を高める」ための3校協働研究
 - ・宇治ひろの学園の子どもたちの「学びの実態」についての調査分析と実態把握から「学習意欲」を切り口に学校教育の「児童生徒の学力向上（確かな学力）」への具体的アプローチを考え、実践していく。
- 今までの研究の成果・課題を整理して、研究内容・取組の再確認、共通理解を深めることにより、より効果的に取組を進める。
- 宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進
 - ・年間の計画（5月：総会 8月：合同研修会 3月：各校でまとめ）
 - ・2小1中で協力した授業研究（小小の連携、小中の連携）
 - ・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実
 - ・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進
- 学力向上に向けての取組
 - ・宇治ひろの学園 共通問題（算数）の作成・実施
 - ・中学校定期テスト不安軽減の取組（小学校6年生で実施）
- 小小連携の充実
- 保護者、地域への情報発信と啓発の充実

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・教員の定期的な打合せの時間の確保
- ・各部会の校種をこえた組織的な活動の実施
- ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施(授業研への参加・交流)
- ・3校での夏季合同研修の実施
- ・小6の中学校体験学習での小中教員の合同での授業
- ・中学校教員の小学校体験研修及び小学校教員の中学校体験研修
- ・小学校教員の中学校部活動見学
- ・生徒指導交流と連携の充実(年間3回;学期1回)
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組(2学期以降3回程度)

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・全国学力学習状況調査や京都府学力診断テスト、及びブロック独自で取り組むCRTテストの結果の分析と課題解決に向けた取組の検討及び実施
- ・宇治ひろの学園共通問題(小6算数)の実施
- ・よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す「宇治学」の充実
- ・コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上)
- ・児童生徒理解部会、特別支援教育部会の合同研修の計画及び実施
- ・中学校ブロック独自の生徒指導カルテの作成・引継
- ・HOT-MEETING(3校合同児童生徒会)の実施(年3回程度)
- ・福島ひまわりプロジェクトの実施
- ・3校児童生徒会合同での取組の充実(あいさつ運動)
- ・小6の中学校体験学習での小小交流事業
- ・中学1年生による2小学校1年生への読み聞かせ(紙芝居)

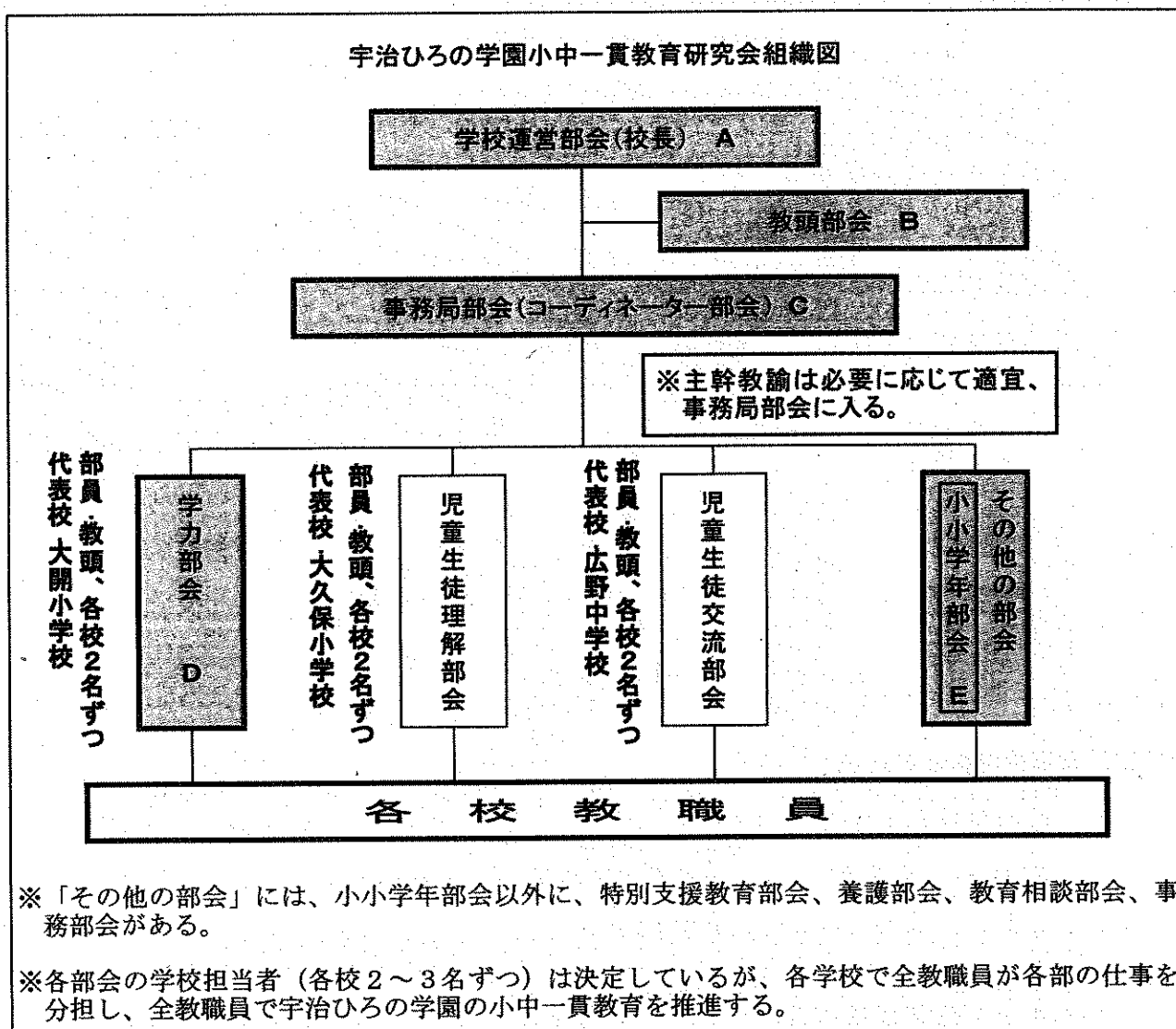
(3) 家庭や地域との連携

- ・H00P(宇治ひろの学園小中一貫教育だより)の保護者・地域への全戸配付
- ・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用
- ・各校での行事を活用した積極的な情報発信
- ・3校合同の地域懇談会や学校評議委員会の計画及び実施
- ・小6の中学校体験学習の保護者参観
- ・大開っ子くらぶ(土曜日の活用事業)での広中生徒の参加

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

- ・ブロック校長会議(学校運営部会)の実施(月1回以上)及び教頭部会の開催
- ・コーディネーター会議(事務局部会)の定期的な実施(月1回以上)
- ・学園児童生徒の学力充実を目指し、各部会の組織的な活動の実施

5 令和元年度小中一貫教育を推進する組織図



ブロック小中一貫教育目標

＜教育目標＞

夢や希望を持って未来を切り拓ける児童生徒の育成

＜9年間で育てたい力（めざす児童生徒像）＞

自ら学び考える力 豊かな人間関係を築ける力 健やかな体で粘り強くやり抜く力
自分の生き方を求めていく力

昨年度の成果と課題

〈成果〉

- ・児童会、生徒会を中心に多彩な取組を進めることができた。
- ・小中一貫教育を支える小小連携に力を入れ取組を進めることができた。
- ・学園の学力課題を焦点化した共通問題を作成し、授業の中で活用することができた。
- ・広野中学校生徒や教員と小学生が具体的な中学校の生活や学習の仕方について話し、感じたことを小学校生活に生かす活動を通して、中学校に向けての不安を軽減することができた。
- ・3校合同での地域懇談会や学校評議員会議を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・3校の行事予定表や HOOP（宇治ひろの学園小中一貫だより）を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。

〈課題〉

- ・各校の教職員の交流や共同研究を充実させ、教職員の意識や日常的な取組を定着させる。
- ・学園全体の学力向上を目指し、さらに学力充実に焦点化した取組をさらに推進する。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」をさらに展開していく。

今年度の重点

- ◎「学びの意欲を高める」ための3校協働研究
- ・宇治ひろの学園の子どもたちの「学びの実態」についての調査分析と実態把握から「学習意欲」を切り口に学校教育の「児童生徒の学力向上（確かな学力）」への具体的アプローチを考え、実践していく。
- 宇治ひろの学園小中一貫教育の円滑な運営及び推進
- ・各部会の取組の再確認と共通理解を深めることによる効果的な取組の推進（特に学力向上の取組について）
- ・年間の計画（5月：総会 8月：合同研修会 3月：各校でまとめ）
- ・伝え合う力の育成のための取組
- ・2小1中で協力した授業研究（小小の連携、小中の連携）
- ・児童生徒の交流・小学校教員と中学校教員の交流の充実
- 学力向上に向けての取組
- ・宇治ひろの学園共通問題（算数）実施
- ・中学校定期テスト不安軽減の取組（小学校6年生で実施）
- ・小中一貫連携教員の活用
- ・学力向上に向けた取組の小小連携の強化
- 小小連携の充実

今年度の取組

★教職員が交流・共同研究する取組

- ・「学びの意欲を高める」ための3校協働研究
- ・宇治ひろの学園研究会の開催
（5月総会、8月夏季合同研修会）
- ・2小学校教員による小小交流の充実
- ・各校授業研究会への参加
- ・小学校教員による中学校の部活動見学
- ・中学校教員による小学校体験研修 他

★学力充実の取組

- ・板書カード・授業システム・家庭学習の手引き
- ・全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、CRTテストの結果分析と課題の共通理解
- ・小学校高学年での「教科担当制」
- ・中1振りスタへの小学校教員の参加
- ・宇治ひろの学園共通問題（算数）の実施 他

★児童生徒が交流する取組

- ・児童生徒の主体のHOT-MEETING（3校合同児童生徒会）運営
- ・HOT-STUDY（中学校 新入生半日入学）
- ・中学生による小学生への紙芝居の読み聞かせ
- ・福島ひまわり里親プロジェクトへの参加 他

★保護者・地域と交流する取組

- ・3校合同地域懇談会の開催
- ・3校合同PTA・育友会懇談会の開催

令和元年度 東宇治中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立東宇治中学校	校長	岩場	利知
宇治市立岡屋小学校	校長	谷口	喜一
宇治市立南部小学校	校長	三上	誠一
宇治市立三室戸小学校	校長	徳田	雅人

小中一貫教育コーディネーター

東宇治中学校	教諭	清原	晃信
岡屋小学校	教諭	向井	毅
☆ 南部小学校	教諭	小谷	実
三室戸小学校	教諭	田中	健太

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

教育目標

「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像

「自ら学び学習する児童・生徒」
「思いやりのある児童・生徒」
「たくましく生きる児童・生徒」
「健康や安全を考える児童・生徒」

2 昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえた、授業や指導を通した小中合同の研究・取組を進めることができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議・ブロック教頭会議のリーダーシップのもと、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒を「命を輝かす人間」に成長させるために、学力課題や生活課題を一層明確にし、小中一貫教育の視点で、課題解決に向けた取組を進める必要がある。そのために、学力の充実・向上にウェイトを置いた取組が展開できる組織に改編する。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

- これまでの小中連携・小中一貫教育の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、確かな学力と生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、取組の点検・評価・改善を図る。
- 「ブロック校長会議」の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「児童生徒学力充実推進部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進める。その中に、ことばの力や国語力を高める視点を加え、日常の授業や家庭学習、小中一貫教育の様々な取組と関連させ、児童生徒の「主体的・協働的に学ぶ力」を高めながら、生きて働く学力や生きる力の充実・向上を図る。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

年間を通して、小中合同研修会(合同研究授業を含む)や児童生徒学力充実推進部会で、本ブロックの児童生徒の学力・生活課題に迫るテーマや小中の接続の課題について研修や取組を進め、系統的・継続的な指導の充実を図る。特に、授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進める。その中に、ことばの力や国語力を高める視点を加え、日常の授業や家庭学習、小中一貫教育の様々な取組と関連させ、児童生徒の「主体的・協働的に学ぶ力」を高めながら、生きて働く学力や生きる力の充実・向上を図る。また、中1ギャップを解消するための取組についても積極的に進める。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

3小1中での児童生徒交流や1小1中での児童生徒交流、小中一貫教育の基盤となる小小連携の取組、地域・PTA(育友会)と連携し地域ぐるみで進める取組など、様々な形態を工夫しながら、小中一貫教育を総合的に推進する。

また、「宇治学」について、副読本の活用を進めながら、本ブロック3小1中での7年間の系統的指導の在り方について検討を進める。

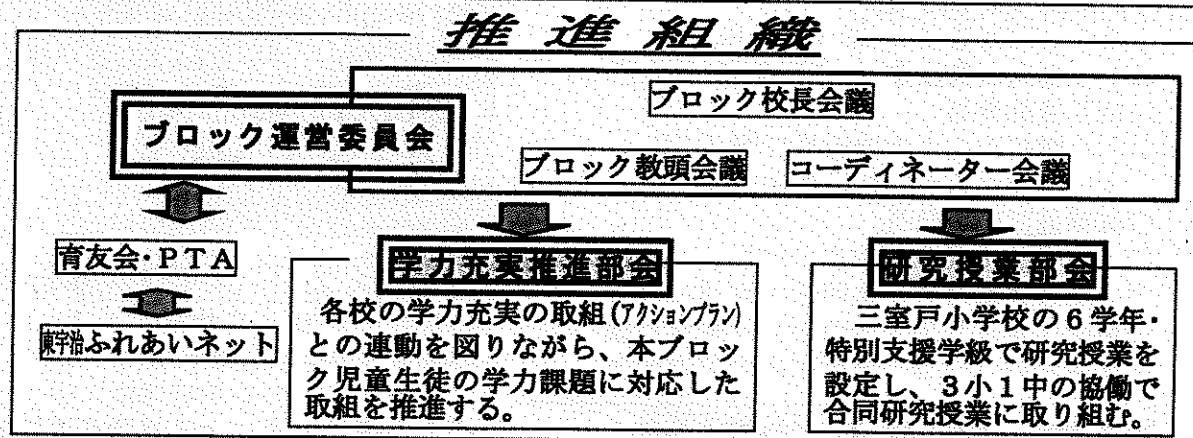
(3) 家庭や地域との連携

定期的に小中一貫教育だよりを配布したり、各校の学校便り等で小中一貫教育の取組を広報したり、情報発信を積極的に進める。また、地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事へ積極的に参画する。

家庭との連携強化の切り口として、ブロック共通の「家庭学習の手引き」(保存版)を活用するが、その内容や活用方法について検討する。

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

ブロック校長会議の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「児童生徒学力充実推進部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。特に、学力の充実向上にウエイトを置いた取組を推進するために「児童生徒学力充実推進部会」を新たに設置する。また、ブロック校長会議やブロック教頭会議とコーディネーター会議との連携を強化し、小中一貫教育を推進する機能的な体制を追求する。



※組織分担

ブロック校長会議

ブロック教頭会議

コーディネーター会議

ブロック小中一貫教育推進の方向性の提示

ブロック小中一貫教育の推進・調整、地域・PTA育友会との連携

小中一貫教育推進(学力の充実向上)に関わる調整、

取組の企画・運営・進行管理

研究授業部会

小中合同の研究授業に関わる事前研究・事後研究
(全教職員を、小学校は該当学年に、中学校は調整・割り振りを行う)

児童生徒学力充実推進部会

ブロックの児童生徒の学力課題に対応した取組の推進

(各校、コーディネーターと学力向上推進委員等学力充実・向上の核となる先生1名で組織)

○これまでの児童生徒学力充実部会が進めてきた取組(授業スタンダード・学力分析・家庭学習の手引き等)の継承

○夏季合同研修会での研修内容の企画・運営

○各校の学力充実の取組(アクションプラン)の交流

○本ブロックの新たな学力充実の取組の推進 等

今年度の取組

教育目標

「命を輝かす人間」

めざす児童・生徒像

「自ら学び学習する児童・生徒」

「思いやりのある児童・生徒」

「たくましく生きる児童・生徒」

「健康や安全を考える児童・生徒」

昨年度の成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえ、授業や指導を通した小中合同の研究・取組を進めることができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議・ブロック教頭会議のリーダーシップのもと、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒の学力課題や生活課題を一層明確にし、小中一貫教育の視点で、課題解決に向けた取組を進める必要がある。そのために、学力の充実・向上にウエイトを置いた取組が展開できる組織に改編する。

今年度の重点

- 小中一貫教育実施6年間の成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、小中一貫教育の基本である「義務教育9年間で、将来にわたって生きて働く学力や生きる力を身に付けさせるための系統的・統一的な指導を実現する」という視点で、日々の指導の充実を図りながら、取組の点検・評価・改善を進める。
- 「ブロック校長会議」の指導のもと、「ブロック教頭会議」を核とした「ブロック運営委員会」を推進の要とした推進組織体制を確立し、「コーディネーター会議」や「推進3部会」、合同研究授業に向けた「授業研究部会」で、様々な取組を具現化し、ブロックの小中一貫教育を推進する。
- 授業公開・合同研究授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を積極的に進める。その中に、ことばの力や国語力を高める視点を加え、日常の授業や家庭学習、小中一貫教育の様々な取組と関連させ、児童生徒の「主体的・協働的に学ぶ力」を高めながら、生きて働く学力や生きる力の充実・向上を図る。
- 地域ぐるみで児童生徒を育て、高める視点を持ち、地域・PTA(育友会)行事への参画や家庭・地域への情報発信、連携強化を積極的に進める。

教職員研修

- 小中合同研修会(5/29・8/22・11/13)
- 小中合同研究授業(11/13 会場:三室戸小)
- 相互授業参観
 - ・小学校から中学校授業参観(5/29)
 - ・中学校から小学校授業参観(6/28)
- 教職員広報の発行
- 4校学校便りを教職員へ配布
- 3小合同研修会+合同学年会(8/22)
- 中学1年ふりスタへの小学校教員支援
- 東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便りの発行
- 「家庭学習の手引き」(保存版)の配布
- PTA・育友会 保護者合同研修会(2学期)
- 小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置
- 小中一貫教育リーフレットの配布(小学1年転入生)
- 「おおばくまつり」(東宇治ふれあいネット)

児童・生徒交流

- 小学6年生の中学校体験入学(11/6)
- 中学2年生の小学校での職場体験(6/6・7)
- 児童会・生徒会協同の取組
- 中学生の美術作品巡回展示(2学期)
- 花植ボランティアによるブランター贈呈
- 地域行事での交流

小中スムーズな接続のために

- スクールライフサポートブック配布(小学6年)
- 先スタ(中学入学前の学習)の配布(小学6年)
- 小学6年生の中学校体験入学(11/6)
- 小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
- 東宇治中入学保護者説明会(12/3)
- 小中連絡会(5/13・12月・2月)
- 中学校学校便りを小学6年生に配布
- 授業スタンダードの積極的活用
- 定期テスト対策(小学6年)
- 「宇治学」カリキュラムの検討

学力の充実・向上

- 児童生徒に「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、生きて働く学力、生きる力を身に付けるために
- 授業充実のための相互授業参観・合同研究授業(ことばの力・国語力の向上)・授業スタンダードの活用
- 中1京都府学力診断テストを中心とした学力分析を小・中学校の授業改善に活用
- ふりスタ・先スタ・定期テスト対策(小6)による小中の接続強化
- 家庭学習の手引き・スクールライフサポートブックによる家庭学習習慣・生活習慣の確立
- 各校のアクションプランと連動させた学力の充実・向上の取組の展開

令和元年度 木幡中学校ブロック ジョイントプラン — 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立木幡中学校	校長	永田	博嗣
宇治市立木幡小学校	校長	福地	裕之
宇治市立御蔵山小学校	校長	川井	利彦
宇治市立笠取小学校	校長	林口	泰之
宇治市立笠取第二小学校	校長	井上	浩

小中一貫教育コーディネーター

☆ 木幡	中学校	教諭	安田	睦美
木幡	小学校	教諭	西村	浩
御蔵山	小学校	教諭	大空	幸恵
笠取	小学校	教諭	堀	聡志
笠取第二	小学校	教諭	寺寄	真司

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

木幡中ブロック教育目標

「故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童生徒」

2 昨年度の成果と課題

（成果）

- ・定期テスト前の1日の家庭学習時間集計の取組は、中1生徒の定期テストへ向けての前向きな姿勢づくりにつながった。
- ・6年生卒業後の春休み宿題（国語、算数、英語）は、中学入学後に中学教員が新入生の基礎学力把握に役立ち、個々の生徒への支援の参考資料となった。
- ・学びのある授業のモデルとして研修会での中学校の授業参観や研究授業を行い、教師間の意識を高めることができた。
- ・「やましる授業スタンダード」を活用し、ブロック全体の授業力向上を目指した。
- ・小中一貫だよりを発行し、研修会のまとめをブロックの教職員に報告した。
- ・小中合同研修会を通して、ブロック教員全員で一つのテーマに沿って研究授業を実施し、4人組を取り入れた授業づくりについて研修を深められた。
- ・児童・生徒交流については、体験入学が定着し、互いにとって実りのあるものとなっている。

（課題）

- ・「特別支援」の視点を加えた研修を行う。
- ・半日体験入学で小学校と中学校の先生との協力体制を作っていく。
- ・生徒会新聞を作り、生徒の様子を伝える。
- ・日々の中で「主体的対話的で深い学び」につながる授業が実現を目指す研修にする。
- ・8教科部会（国・社・数・理・体・芸・外・道）に編成する。道徳科を加える。
- ・3連絡会に編成する。（①学力充実いしずえ・②児童生徒理解・③健康安全）

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

- ・ラーニングコーディネーターを中心に、「やましる授業スタンダード」や「宇治アクションプラン」を活用した、学力向上のための主体的対話的な授業づくりを木幡中ブロック全体で行う。
- ・3つの連絡会（学力充実いしずえ・児童生徒理解・健康安全）と、8つの教科部会で、小中の系統的、継続的な指導を進める。
- ・特別支援教育の視点を生かした生徒指導の研修を行う。
- ・小中一貫だよりとHPを活用し、児童生徒、保護者、教職員、地域への啓発活動を進める。
- ・各研修会の報告をブロックの教師で共有できるように一貫だよりを作成する。

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・ 中学入学時の不安軽減へ向けての取組を行う。
- ・ 小中一貫の系統的な生徒指導を行う。
- ・ 中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
- ・ へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
- ・ 合同研修会を通して小中教員が連携し、木幡中ブロックの学力向上につながる主体的対話的で深い学びのある研究授業を行う。
- ・ 第1回合同研修会で、小学校の教師が中学校の授業参観を行い、進学後のことを考えた指導を心がける。
- ・ 第3回合同研修会で、研究授業を行い、継続的な学習指導の交流をする。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施

- ・ 部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向を探る。

② 中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実

- ・ ラーニングコーディネーターがその特性を生かし、ジョイントプランに沿った形で教職員の研修を進める。
- ・ 全教職員が、教科部会または連絡会に所属する。
- ・ 各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
- ・ 研究の具体的な方向性を掲げる。
どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にした授業にしていく。
- ・ 研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
- ・ 年間3回の小中教員の合同研修会（6月12日、8月19日、11月13日）を行う。
その中で各部長を中心とした教科部会を持ち、授業改善に努める。
- ・ 8月19日の研修会では、全体会で小中で共通する課題（特別支援教育）について講師を招き小中での教育活動の連携を図る。分散会で11月の研究授業に向けての準備を進める。

③ 中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実

ア 小学6年生の中学校への半日体験入学

11月6日 歓迎行事の取組、部活動の見学

イ 中学生の部活動単位での交流

- ・ 吹奏楽部による小学校での発表会 ・ 美術部による小学校作品展への展示発表

ウ 児童会、生徒会の交流

- ・ 小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。

エ 三校交流による小小連携の取組

6月 御蔵山小、笠取小、笠取第二小 、 11月 木幡小、笠取小、笠取第二小

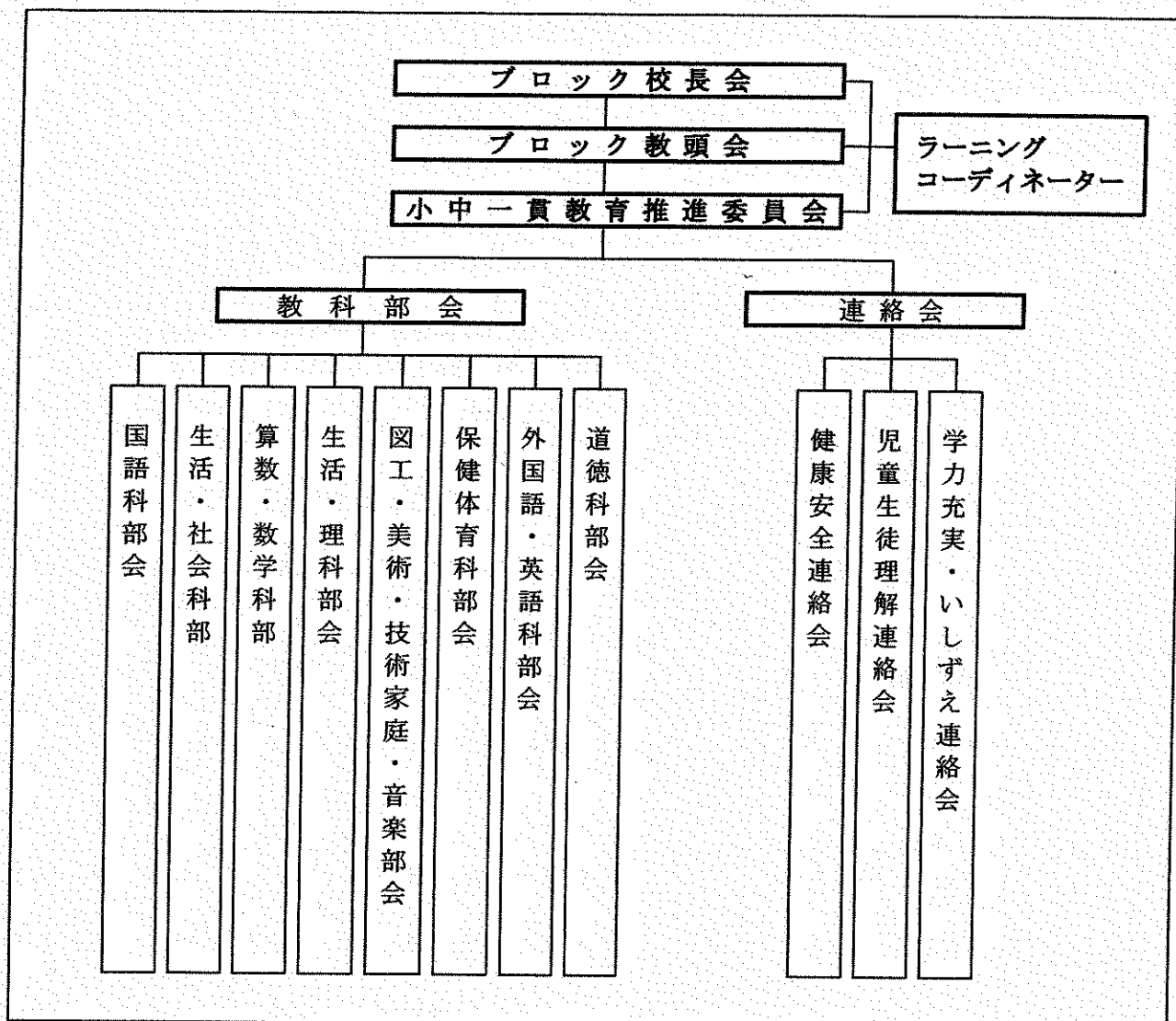
(3) 家庭や地域との連携

- ・ ふれあいフェスタ、おもしろいやんか木幡への参加
- ・ 「小中一貫教育通信」（保護者、児童生徒、教師向け）を定期発行する。
- ・ 中学校の「生活だより」（毎月発行）を全6年生に配布する。
- ・ ホームページ等の活用
- ・ 11月8日（金）新入生保護者説明会

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

- ・ ブロック校長会、小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。
- ・ 8教科部会および3連絡会で連携を図り、特色のある取組を推進する。
- ・ 各学校のコーディネーターと連携をとり、各校の状況を共有する。

5 令和元年度小中一貫教育を推進する組織図



ブロック小中一貫教育目標

めざす子ども像 故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒

昨年度の成果と課題

(成果)

- ・定期テスト前の1日の家庭学習時間集計の取組は、中1生徒の定期テストへ向けての前向きな姿勢づくりにつながった。
- ・6年生卒業後の春休み宿題（国語、算数、英語）は、中学入学後に中学教員が新入生の基礎学力 把握に役立ち、個々の生徒への支援の参考資料となった。
- ・学びのある授業のモデルとして研修会での中学校の授業参観や研究授業を行い、教師間の意識を 高めることができた。
- ・「やましろ授業スタンダード」を活用し、ブロック全体の授業力向上を目指した。
- ・小中一貫だよりを発行し、研修会のまとめをブロックの教職員に報告した。
- ・小中合同研修会を通して、ブロック教員全員で一つのテーマに沿って研究授業を実施し4人組を取り入れた授業づくりについて研修を深められた。
- ・児童・生徒交流については、体験入学が定着し、互いにとって実りのあるものとなっている。

(課題)

- ・「特別支援」の視点を加えた研修を行う。
- ・半日体験入学で小学校と中学校の先生との協力体制を作っていく。
- ・生徒会新聞を作り、生徒の様子を伝える。
- ・日々の中で「主体的対話的で深い学び」につながる授業が実現を目指す研修にする。
- ・8教科部会（国・社・数・理・体・芸・外・道）に編成する。道徳科を加える。教科以外は3連絡会に編成する。（①学力充実いしずえ・②児童生徒理解・③健康安全）

今年度の重点

- ・ラーニングコーディネーターを中心に、「やましろ授業スタンダード」や「宇治アクションプラン」を活用した、学力向上のための主体的対話的な授業づくりを木幡中ブロック全体で行う。
- ・3つの連絡会（いしずえ学力充実・児童生徒理解・健康安全）と、8つの教科部会で、小中の系統的、継続的な指導を進める。
- ・特別支援教育の視点の研修を行う。
- ・小中一貫だよりとHPを活用し、児童生徒、保護者教職員、地域への啓発活動を進める。
- ・各研修会の報告をブロックの教師で共有できるように一貫だよりを作成する。

今年度の取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・中学入学時の不安軽減へ向けての取組を行う。
- ・小中一貫の系統的な生徒指導を行う。
- ・中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
- ・へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
- ・合同研修会を通して小中教員が連携し、木幡中ブロックの学力向上につながる主体的対話的で深い学びのある研究授業を行う。
- ・第1回合同研修会で、小学校の教師が中学校の授業参観を行い、進学後のことを考えた指導を心がける。
- ・第3回合同研修会で、研究授業を行い、継続的な学習指導の交流をする。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ①中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施
- ・部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向を探る。

②中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実

- ・ラーニングコーディネーターがその特性を生かし、ジョイントプランに沿った形で教職員の研修を進める。
- ・全教職員が、教科部会または連絡会に所属する。
- ・各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
- ・研究の具体的な方向性を掲げる。
どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にした授業にしていく。
- ・研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
- ・年間3回の小中教員の合同研修会（6月12日、8月19日、11月13日）を行う。
その中で各部長を中心とした教科部会を持ち、授業改善に努める。
- ・8月19日の研修会では、全体会で小中で共通する課題（特別支援教育）について講師を招き小中での教育活動の連携を図る。分散会で11月の研究授業に向けての準備を進める。

③中学校ブロックにおける児童生徒の交流事業、体験活動の充実

ア 小学6年生の中学校への半日体験入学

- ・11月6日 歓迎行事の取組、部活動の見学

イ 中学生の部活動単位での交流

- ・吹奏楽部による小学校での発表会 ・美術部による小学校作品展への展示発表

ウ 児童会、生徒会の交流

- ・小学校児童会本部役員会と中学校生徒会本部役員会が共に交流する機会を設定する。

エ 三校交流による小小連携の取組

- ・6月、御蔵山小、笠取小、笠取第二小 11月 木幡小、笠取小、笠取第二小

(3) 家庭・地域社会との連携

- ・ふれあいフェスタ、おもろいやんか木幡への参加。
- ・「小中一貫教育通信」（保護者、児童生徒、教師向け）を定期発行する。
- ・中学校の「生活だより」（毎月発行）を全6年生に配布する。
- ・ホームページ等の活用
- ・11月8日（金）新入生保護者説明会

(4) 中学校ブロック推進体制と取組の充実・改善

- ・ブロック校長会、小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。
- ・8教科部会および3連絡会で連携を図り、特色のある取組を推進する。
- ・各学校のコーディネーターと連携をとり、各校の状況を共有する。

令和元年度 黄檗中学校ブロック ジョイントプラン

— 小中一貫教育推進計画 —

宇治市立宇治小学校 校長 原田 繁
宇治市立黄檗中学校 副校長 吉田 英司

小中一貫教育コーディネーター

☆ (宇 治) 小学校 教諭 坂上 敬宣
(黄 檗) 中学校 教諭 酒井 康輔

1 ブロック小中一貫教育目標・めざす子ども像

(1) 校訓

「たかく」 高い志を持って、学びの道を究める人
「すずしく」 さわやかな心、優しい心を持った人
「たくましく」 強い意志を持って、人生を切り拓く人

(2) 教育目標

高い志を持ち、他者と協調しながら、たくましく生き抜く人間を育成する。

(3) めざす児童生徒像

高い志を持って、学びの道を究める人 (質の高い学力)
さわやかな心、優しい心を持った人 (豊かな人間性・社会性)
強い意志を持って、人生を切り拓く人 (意欲や情熱、健康な体)

2 昨年度の成果と課題

- ・全ての教科を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指した授業づくりに向けて、大学教員を講師に招聘するなど学園全体で研究を進めることができた。
- ・1～9年生が共に過ごす中で、自然と下級生は上級生を見て学び、上級生はその自覚を持つことで、自立的な態度を身に付けている。
- ・学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

3 令和元年度中学校ブロックにおける小中一貫教育の重点取組

9年間を生かした自己実現力の育成

～意欲的・主体的な学び合いによる質の高い学力の育成～

『全ての教育活動において「主体的・対話的で深い学び」を追究する』

4 令和元年度小中一貫教育の到達目標達成に向けての具体的取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

① 学習指導

ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。

イ 全ての教科を通じて「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指し授業づくりを行っていく。

ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。

エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。

② 生徒指導

ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。

イ 課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情を醸成する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1,2年生（年間18時間）3,4年生（年間35時間）で外国語活動、5,6年生（年間70時間）の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。

② 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(3) 家庭や地域との連携

① 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加

② 地域懇談会への教職員の参加

③ 親のための進路セミナーの開催

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

① 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で、適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実に行之、随時、計画や取組についての点検を行う。

② 企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。

令和元年度 校務分掌表

校長	原田
副校長	吉田
教頭	澤山 上田
主幹	吉野
教務	坂上 酒井
生指	吉野 西野
教相	永島
特支	黒木 一針
通級	横江 赤野
養教	増谷 柏木
わかば主	高見
1年主	松居
2年主	渋谷
3年主	横野
4年主	高橋
5年主	中嶋
6年主	赤
きはだ主	森谷
7年主	宮脇
8年主	横西
9年主	山根

校務分掌	ライン会議
校長	
副校長	
教頭	
主幹	
教務	
生指	
教相	
特支	
通級	
養教	
わかば主	
1年主	
2年主	
3年主	
4年主	
5年主	
6年主	
きはだ主	
7年主	
8年主	
9年主	

〇企画委員会	管理職 主幹 教務 生指 学年主任
〇前期主任会	教頭 主幹 教務 学年主任 養教
〇中後期主任会	副校長 小中教頭 主幹 小中教務 生指 学年主任 養教
〇学校安全委員会	教頭 主幹 教務 生指 養教 育友会
〇特支・教相校内委員会	(校内就学指導委員会を兼ねる) 教頭 特支C 主幹 生指 教相部長 通級 特支部長 特支担任 養教
〇学校保健会	教頭 保健主事 養教 栄養 給食 育友会 3校医
〇給食運営委員会(小)	教頭 主幹 教務 養護 育友会
〇いじめ対策委員会	管理職 主幹 教務 生指 教相部長 学年主任 学年生指
〇安全衛生委員会	教頭 教職員各世代代表
〇学園体育大会実行委員会	小：実行委員長 教頭 主幹 教務 体育部 中：実行委員長 教務 生指 学年主任 特活 体育科
〇学園文化祭実行委員会	小：実行委員長 教頭 主幹 教務 図工部 中：実行委員長 教務 生指 学年主任 特活 美術科

きはだ会 ①河田 ②藤本 ③安井 ④高桑 ⑤山本 ⑥小西 ⑦道岸 ⑧坂井 ⑨小西 ⑩中井 柏木

マイクラブ主幹 ①～③ ④～⑥ ⑦～⑨から1名選出

	小		中	
	小	中	小	中
教育課程	教務	教務	教務	教務
時間割	教務	教務	教務	教務
成績・通知表	教務	教務	教務	教務
学事	教務	教務	教務	教務
調査・統計・記録	教務	教務	教務	教務
研修計画・現職教育	教務	教務	教務	教務
教科書 副読本	教務	教務	教務	教務
証明書	教務	教務	教務	教務
初任者指導	教務・教員養成	教務	教務	教務
教育広報	教務	教務	教務	教務
教育広報(HP)	主幹 教頭 情報部長	主幹 教頭 情報部長	主幹 教頭 情報部長	主幹 教頭 情報部長

	小		中	
	小	中	小	中
①杉山 ②谷本	〇森川 横江 城島 俣野 高桑	〇横西 三上	〇松田 賀敷 渋谷 野澤	〇田立 小西 酒井
③安井 ④松田	〇松田 賀敷 渋谷 野澤	〇田立 小西 酒井	〇山根 坂井 村上	〇三上 村上 横西
⑤中嶋 ⑥森川	〇山根 坂井 村上	〇三上 村上 横西	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
⑦宮脇 ⑧高橋	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻	〇由利 酒井 宮脇 横西 小西	
⑨由利 小西	〇由利 酒井 宮脇 横西 小西			
小中教務				
〇中嶋 由利				

	小		中	
	小	中	小	中
人権教育	〇渋谷 高橋 野澤	〇田立 小西 三上	〇山根 坂井 村上	〇三上 村上 横西
キャリア教育	〇谷本 赤	〇由利	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
環境教育	〇河田 坂井 森川	〇山根 坂井 村上	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
図書館教育	〇俣野 竹下 藤本	〇三上 村上 横西	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
情報教育	〇乾 西川 高桑 辰巳 小西	〇横尾 朝倉 坂井	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
食教育	〇安井 明石 黒木	〇横尾 朝倉 坂井	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
健康教育	〇増谷 安達 徳永	〇柏木 道岸 西野 横尾	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
安全教育	〇増谷 安達 徳永	〇柏木 道岸 西野 横尾	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
国際理解教育	〇杉山 西田	〇横尾 朝倉 坂井	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻
総合的な学習	〇中嶋 上辻	〇横尾 朝倉 坂井	〇横尾 朝倉 坂井	〇中嶋 上辻

	小		中	
	小	中	小	中
A 生徒指導部	①安達 ②渋谷 ③横野 ④高橋 ⑤西田 ⑥徳永 ⑦道岸 ⑧西野 ⑨小西 ⑩吉野 増谷			
〇吉野 西野				
A 教育相談部	①松居 ②乾 ③赤 ④宮脇 ⑤永島 野澤 ⑥西村 横尾 ⑦澤山 横江 赤野 一針			
〇赤 永島				
A 特別支援教育部	①黒木 ②野澤 ③宮脇 ④永島 野澤 ⑤西村 横尾 ⑥中井 賀敷 山上 高見 一針 森谷			
〇黒木 一針				
A 特別活動部	①河田 ②藤本 ③上辻 ④高桑 ⑤山本 ⑥小西 ⑦村上 ⑧坂井 ⑨山根 ⑩城島 賀敷			
〇河田 坂井				
学級活動				
学園会活動				
クラブ活動				
進路指導部	由利 山根			
〇由利				

	小		中	
	小	中	小	中
野球	酒井 西野			
バレーボール男子	森谷 山根			
バレーボール女子	朝倉 野澤			
ソフトテニス男子	宮脇 由利			
ソフトテニス女子	村上 三上			
卓球	赤野 岡田 堤			
サッカー	小西 道岸			
陸上	坂井 横尾			
バドミントン	田立 西村			
吹奏楽	一針 横西 西川			
科学・美術	永島			

	小		中	
	小	中	小	中
学習委員会	河田 上辻		堤 井ノ本 重原	
体育委員会	辰巳		小西 村上 西野	
環境委員会	渋谷 安達		三上 朝倉 横西	
図書委員会	俣野 杉山		西村 永島 由利	
放送委員会	乾 谷本		山根 宮脇 坂井 高橋	
給食委員会	安井 明石			
保健委員会	藤本 増谷			
掲示委員会	松居 坂井			

	小		中	
	小	中	小	中
管理	施設・設備・備品 教頭 用務			
〇澤山 上田	庶務 教頭 事務			
渉外	〇澤山 上田			

	小		中	
	小	中	小	中
青少年協	主幹 中教頭			
教育後援会	小教頭			
安全連絡会	小教頭 中生指			
体育振興会	主幹 中教頭			
学区福祉会	小教務			
市就学相談	通級 森下 一針			
市小教頭・中教頭	教務			
市小教頭・中教頭	徳永 西野			
生指協	生指			
学体連	きはだ会			
互助組合	教頭 事務			

	小		中	
	小	中	小	中
育友会本部	管理職 小教務			
渉外庶務	坂上			
知外生活班	徳永			
広報部	坂上			
文化部	酒井			
保健厚生部	酒井			
環境整備部	坂上			
選挙管理本部				
会計	教頭			

ブロック小中一貫教育目標めざす子ども像

- ・ 高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）
- ・ さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）
- ・ 強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

昨年度の成果と課題

全ての教科を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指した授業づくりに向けて、大学教員を講師に招聘するなど学園全体で研究を進めることができた。

学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

今年度の重点

9年間を生かした自己実現力の育成

～意欲的・主体的な学び合いによる質の高い学力の育成～

『全ての教育活動において「主体的・対話的で深い学び」を追究する』

今年度の取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

① 学習指導

ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。

イ 全ての教科を通じて「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指し授業づくりを行っていく。

ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出したり、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。

エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。

② 生徒指導

ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。

イ 課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情を醸成する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

① 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1,2年生（年間18時間）3,4年生（年間35時間）で外国語活動、5,6年生（年間70時間）の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。

② 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。

(3) 家庭や地域との連携

① 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加

② 地域懇談会への教職員の参加

③ 親のための進路セミナーの開催

(4) 中学校ブロックの推進体制と取組の充実・改善

① 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で、適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実にし、随時、計画や取組についての点検を行う。

② 企画委員会、前期主任会、中後期主任会等の会議を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。

